



株式会社田中化学研究所

2016年3月期 決算説明会
2016年5月16日

Tanaka Chemical Corporation

目次

1. 決算ハイライト
2. 2016年3月期のトピックス（1）
3. 2016年3月期のトピックス（2）
4. 製品別販売数量推移
5. 営業利益の増減理由
6. 営業外収支および特別損益
7. キャッシュフロー計算書
8. 比較貸借対照表
9. 中期経営戦略
10. 2017年3月期予想
11. 2017年3月期業績予想の補足説明
12. 主原料国際価格推移

決算ハイライト

(百万円)

	2016/3期	増 減	2015/3期
売上高	15,266	+2,881 (+23.3%)	12,384
営業利益	▲301	+92	▲393
経常利益	▲574	+85	▲660
税引前当期純利益	334	+2,991	▲2,657
当期純利益	312	+2,976	▲2,663
EPS(円)	21.05	+210.00	▲188.95
設備投資	533	▲537 (▲50.2%)	1,070
減価償却費	1,085	▲316 (▲22.6%)	1,401
期末従業員数	175名	▲5名	180名

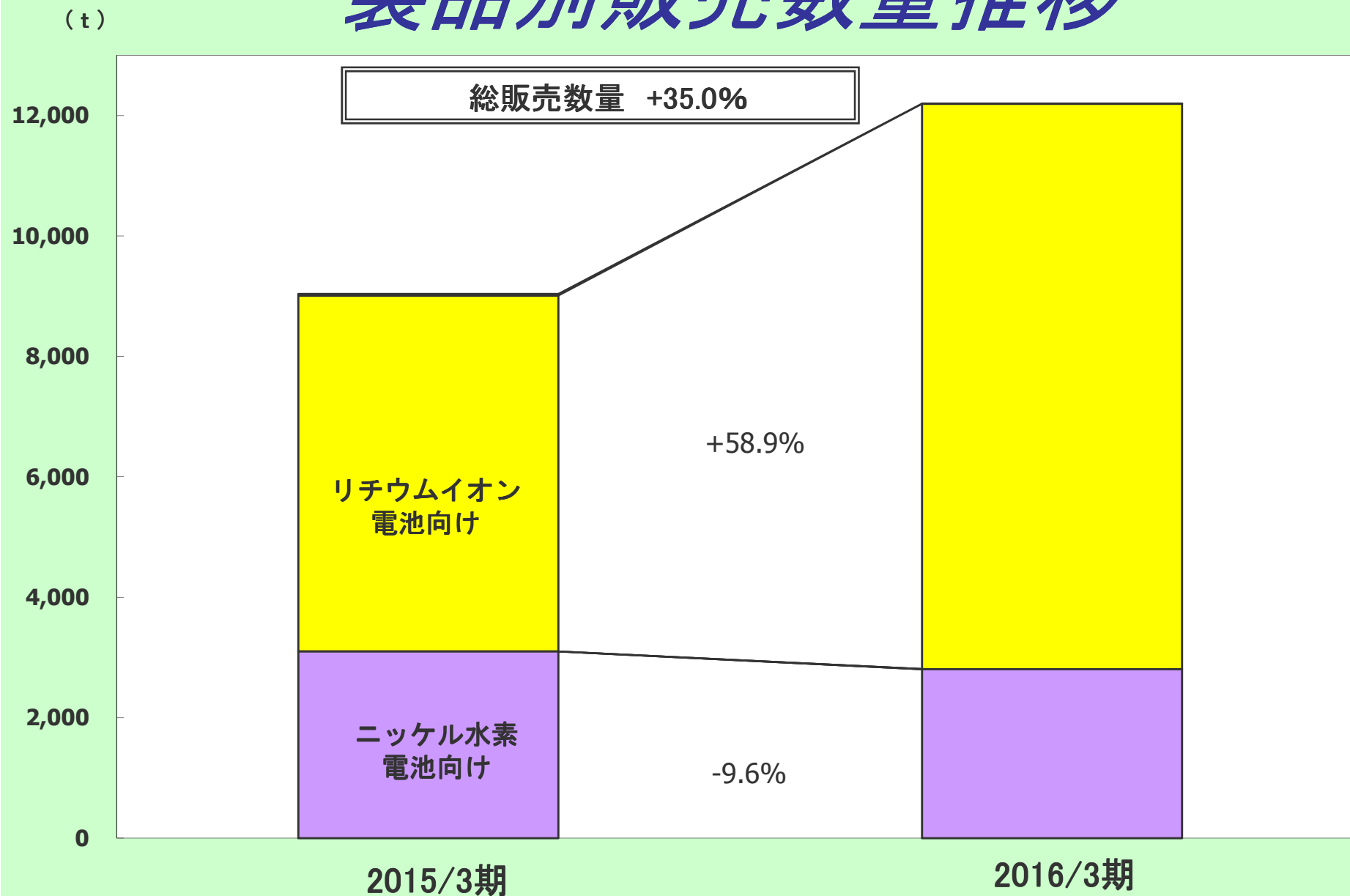
2016年3月期のトピックス(1)

1. 売上高は前事業年度比23.3%増加の15,266百万円。一方、販売数量はリチウムイオン電池向け新製品の本格化により前事業年度比35.0%の増加となった。
2. 【ニッケル水素電池向け製品】
民生用途では前事業年度比5.2%増加したものの、環境対応車用途では第3四半期以降回復基調であるが、主要顧客の一過性の受注変動影響により前事業年度比15.0%減少。全体としては前事業年度比9.6%減少。
3. 【リチウムイオン電池向け製品】
民生用途では新しいアプリケーションの成長により前事業年度比28.8%増加。
環境対応車用途では新規顧客獲得や既存顧客への販売本格化により前事業年度比178.3%の増加。
全体としては前事業年度比58.9%増加。
4. 販売数量は増加したものの、昨夏以降主原料の国際相場の急激かつ大幅な下落の影響により、売上原価が高く推移したことに加えて棚卸評価損計上のため484百万円の損失を余儀なくされる。

2016年3月期のトピックス(2)

5. 財務体質改善に向けた取組みとして、投資有価証券の売却(売却益154百万円)及び固定資産の売却(売却益742百万円)を実施し、特別利益に計上。
6. 平成28年3月28日付で既存借入金(総額7,554百万円)の条件変更契約を金融機関と締結。
7. 住友化学との資本業務提携契約に基づく業務提携は順調に進捗しているものの、共同開発品の顧客評価、部材メーカー選定が本格化するプロセスであることより、追加出資に関する合意期限を平成29年3月末まで1年間延長する。
8. 結果として、営業損失301百万円、経常損失574百万円を計上。
投資有価証券売却及び固定資産売却による特別利益を加え、当期純利益は312百万円を計上。

製品別販売数量推移



営業外収支および特別損益 (百万円)

	2016/3期	増 減	2015/3期
営業外収支	▲272	▲6	▲266
金融収支	▲102	+9	▲112
その他	▲169	▲15	▲154
経常利益	▲574	+85	▲660
特別損益	+908	+2,905	▲1,997
補助金収入	+38	▲25	+63
固定資産売却益	+742	+742	—
投資有価証券売却益	+154	+154	—
固定資産除却損	▲1	+18	▲19
固定資産圧縮損	▲25	+19	▲44
減損損失	—	+1,996	▲1,996
税引前当期純利益	334	+2,991	▲2,657
法人税等	+21	+15	+6
当期純利益	312	+2,976	▲2,663

キャッシュフロー計算書

摘要	2016/3期	(百万円)
I. 営業活動によるキャッシュフロー		
税引前当期純利益	+334	
減価償却費	+1,085	
売上債権増減	▲35	
仕入債務増減	▲810	
棚卸資産増減	+151	
法人税等	▲12	
その他	▲1,035	
計 (A)	▲322	
II. 投資活動によるキャッシュフロー		
有形固定資産の取得	▲1,064	
有形固定資産の売却	+996	
投資有価証券の売却	+202	
その他	+42	
計 (B)	+177	
フリーキャッシュフロー(A)+(B)	▲145	
III. 財務活動によるキャッシュフロー		
長期借入金の返済	▲827	
セール・アンド・リースバックによる収入	+668	
ファイナンス・リース債務の返済	▲126	
計	▲286	
現預金等増減額	▲473	
期末現預金残高	2,893	

比較貸借対照表

(百万円)

	15/3期	16/3期	増減		15/3期	16/3期	増減
流動資産	(8,983)	(7,865)	(▲1,117)	流動負債	(12,331)	(3,319)	(▲9,011)
現預金	3,347	2,893	▲454	仕入債務	3,074	2,264	▲810
売上債権	2,084	2,120	+35	借入金	8,001	309	▲7,692
棚卸資産	2,690	2,538	▲151	その他	1,255	746	▲509
その他	861	313	▲548	固定負債	(691)	(7,330)	(+6,638)
固定資産	(5,649)	(4,599)	(▲1,050)	長期借入金	—	6,864	+6,864
有形固定資産	5,308	4,471	▲837	その他	691	465	▲226
無形固定資産	18	17	▲0	負債計	13,022	10,649	▲2,373
投資等	322	110	▲211	純資産			
				資本金	2,492	2,492	±0
				資本剰余金	1,646	—	▲1,646
				利益剰余金	▲2,643	▲685	+1,958
				自己株式	▲2	▲2	±0
				評価差額金等	117	10	▲107
				(自己資本比率)	(11.0%)	(14.6%)	
				純資産計	1,610	1,815	+205
合計	14,633	12,465	▲2,168	合計	14,633	12,465	▲2,168

中期経営戦略

【経営環境】

★環境対応車用途の需要拡大に向けた大手資本の新規参入。

★民生用途/環境対応車用途におけるグローバル市場の競争激化。

【経営戦略】

中長期的に成長が見込める環境対応車分野の高品質製品への注力

1. リチウムイオン電池向け材料事業の最適化
2. ニッケル水素電池向け材料事業の最適化
3. コスト競争力の強化
4. 人材組織改革

2017年3月期予想

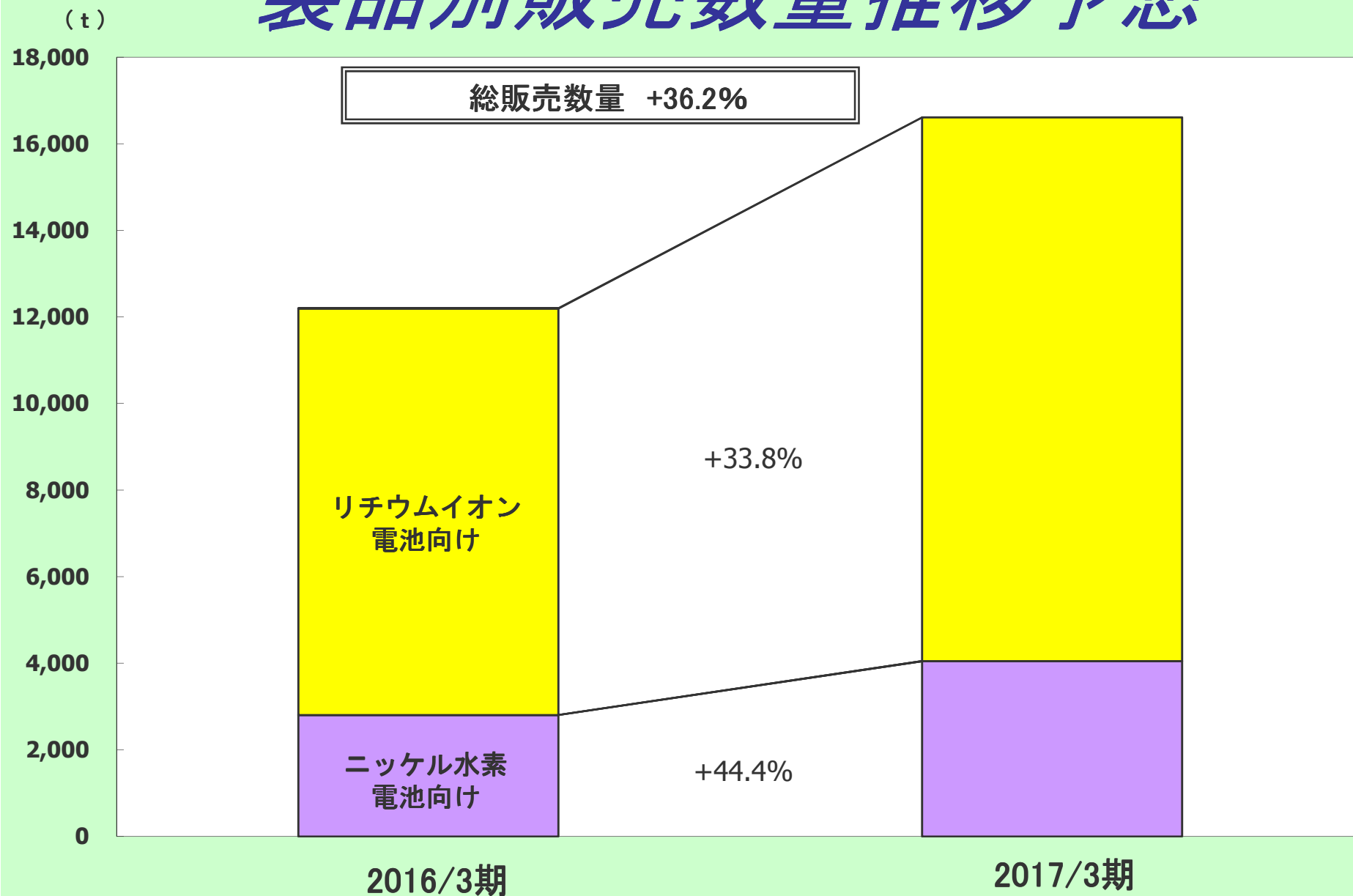
(百万円)

	2017/3期予想	前年比	2016/3期実績
売上高	17,200	+1,934 (+12.7%)	15,266
営業利益	+500	+801	▲301
経常利益	+400	+974	▲574
当期純利益	+350	+38	+312
設備投資	350	▲180 (▲34.5%)	534
減価償却費	810	▲275 (▲25.3%)	1,085

(5月13日公表ベース)

※業績予想につきましては、当社が現時点で入手可能な情報による判断、仮定及び確信に基づくものであり、今後の経済情勢、事業運営における様々な状況変化によって、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。

製品別販売数量推移予想



2017年3月期業績予想の補足説明

1. 当期の業績予想には、ニッケル・コバルト等の主原料メタル価格の変動要因は織り込んでいません。
2. 数量面では前年比36.2%の増加を計画しております。
リチウムイオン電池向け材料では、環境対応車向け事業の拡大と民生向け新規顧客獲得や新規用途への展開を進めることによる販売数量増加を見込んでおります。また、ニッケル水素電池向け材料では環境対応車用途における主要顧客の受注回復による販売数量増加を見込んでおります。
3. 設備投資につきましては、350百万円を計画しております。
また、減価償却費は810百万円となる見込みです。

業績予想につきましては、当社が現時点で入手可能な情報による判断、仮定及び確信に基づくものであり、今後の経済情勢、事業運営における様々な状況変化によって、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。

主原料国際価格推移

